

文化審議会文化財分科会世界文化遺産特別委員会
ワーキンググループの設置について（案）平成 2 2 年 月 日
文化審議会文化財分科会
世界文化遺産特別委員会決定

1. 設置の趣旨

世界遺産暫定一覧表候補及び世界遺産推薦候補の選定に関し、専門的な観点から十分な審議を行うため、世界文化遺産特別委員会（以下「特別委員会」という。）に、次の表の左欄に掲げるワーキンググループを置き、これらのワーキンググループの所掌事務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

名 称	所 掌 事 務
第 1 ワーキンググループ	旧石器・縄文・弥生・古墳時代の文化遺産(その他考古学的遺跡が主となる案件を含む。)に関する事項
第 2 ワーキンググループ	古代(古墳時代を除く。）・中世・近世期の文化遺産に関する事項
第 3 ワーキンググループ	近代の文化遺産(中世・近世期の産業遺産を含む。)に関する事項
第 4 ワーキンググループ	時代を超えて、人と自然との関わりを中心とする遺産に関する事項

2. 調査事項

- (1) 世界遺産暫定一覧表候補に関すること
- (2) 世界遺産推薦候補に関すること
- (3) その他(1)、(2)に関連する課題に関すること

3. ワーキンググループの構成

- (1) 各ワーキンググループに、座長を置き、特別委員会の委員のうちから、特別委員会の委員長が指名する。
- (2) 特別委員会の委員長は、各ワーキンググループにおいて意見を聴くべき者を指名することができる。この場合において、当該者に対しては、文化庁から協力を依頼する。

4. 議事の公開について

文化審議会文化財分科会世界文化遺産特別委員会の例によるものとする。

5. 庶務

このワーキンググループの庶務は、文化財部記念物課が参事官（建造物担当）の協力を得て処理する。

世界文化遺産特別委員会ワーキンググループ の今後の審議の進め方について（案）

1. 趣 旨

世界遺産に係る調査審議を進める上で、我が国の世界遺産暫定一覧表への記載(2件)及び既に世界遺産暫定一覧表に記載されている資産の取扱(9件)、といった件に係る調査審議を行うに際しては、専門的な観点からの十分な調査審議が行われる必要がある。

そのため、世界文化遺産特別委員会の下に、専門分野ごとにワーキンググループ(以下「WG」という。)を設置することとする。

2. 調査審議事項

第1WG：旧石器・縄文・弥生・古墳時代の文化遺産（その他考古学的遺跡が主となる案件を含む。）に関する事項

- ・「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」
- ・「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」
- ・「百舌鳥・古市古墳群」

第2WG：古代（古墳時代を除く。）・中世・近世期の文化遺産に関する事項

- ・「古都鎌倉の寺院・神社ほか」
- ・「彦根城」
- ・「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」

第3WG：近代の文化遺産（中世・近世期の産業遺産を含む。）に関する事項

- ・「富岡製糸場と絹産業遺産群」
- ・「金と銀の島、佐渡」
- ・「九州・山口の近代化産業遺産群」

第4WG：時代を超えて、人と自然との関わりを中心とする遺産に関する事項

- ・「富士山」
- ・「宗像・沖ノ島と関連遺産群」

※ その他これらに関連する課題の検討

3. 調査審議の進め方

担当資産の評価 — 担当する資産についての検討の後、WGとしての評価をまとめ、特別委員会に適宜報告

4. WGの構成

- ・当該分野に係る専門家5～8名程度で構成。
- ・WGの座長は、特別委員会の委員のうちから、特別委員会の委員長が指名。

〈参考1〉

※ 前回WG担当案件：平成19年10月～平成20年8月

各ワーキンググループの担当提案案件

○第1ワーキンググループ

- 「北海道・北東北の縄文遺跡群」
- 「北海道東部の窪みで残る大規模竪穴住居跡群」
- 「松島一貝塚群に見る縄文の原風景」
- 「埼玉古墳群－古代東アジア古墳文化の終着点－」
- 「百舌鳥・古市古墳群－仁徳陵古墳をはじめとする巨大古墳群－」

○第2ワーキンググループ

- 「水戸藩の学問・教育遺産群」
- 「足利学校と足利氏の遺産」
- 「近世高岡の文化遺産群」
- 「城下町金沢の文化遺産群と文化的景観」
- 「善光寺と門前町」
- 「松本城」
- 「妻籠宿・馬籠宿と中山道－『夜明け前』の世界」
- 「飛騨高山の町並みと祭礼の場－伝統的な町並みと屋台祭礼の文化的景観－」
- 「近世岡山の文化・土木遺産群－岡山藩郡代津田永忠の事績」
- 「萩－日本の近世社会を切り拓いた城下町の顕著な都市遺産」
- 「錦帯橋と岩国の町割」
- 「山口に花開いた大内文化の遺産－京都文化と大陸文化の受容と融合による国際性豊かな独自の文化－」

○第3ワーキンググループ

- 「足尾銅山－日本の近代化・産業化と公害対策の起点－」
- 「金と銀の島、佐渡－鉱山とその文化－」
- 「立山・黒部～防災大国日本のモデル－信仰・砂防・発電～」
- 「日本製糸業近代化遺産～日本の近代化をリードし、世界に羽ばたいた糸都岡谷の製糸遺産～」
- 「九州・山口の近代化産業遺産群－非西洋世界における近代化の先駆け」

○第4ワーキンググループ

- 「最上川の文化的景観－舟運と水が育んだ農と祈り、豊饒な大地－」
- 「霊峰白山と山麓の文化的景観－自然・生業・信仰－」
- 「若狭の社寺建造物群と文化的景観－神仏習合を基調とした中世景観」
- 「天橋立－日本の文化景観の原点」
- 「三徳山－信仰の山と文化的景観－」
- 「四国八十八箇所霊場と遍路道」
- 「宗像・沖ノ島と関連遺産群」
- 「宇佐・国東－「神仏習合」の原風景」
- 「阿蘇－火山との共生とその文化的景観」
- 「竹富島・波照間島の文化的景観～黒潮に育まれた亜熱帯海域の小島～」

〈参考2〉

※ 前回WG委員構成：平成19年10月～平成20年8月

文化審議会文化財分科会世界文化遺産特別委員会 ワーキンググループ委員名簿（役職は平成19年10月当時）

（第1ワーキンググループ）

稲田	孝司	岡山大学名誉教授
宇野	隆夫	国際日本文化研究センター教授
○菊池	徹夫	早稲田大学教授
白石	太一郎	奈良大学教授
広瀬	和雄	国立歴史民俗博物館教授
◎三輪	嘉六	九州国立博物館館長

（第2ワーキンググループ）

上野	邦一	奈良女子大学特任教授
◎五味	文彦	放送大学教授
○佐藤	信	東京大学大学院教授
西村	幸夫	東京大学先端科学技術研究センター教授
藤井	譲治	京都大学大学院教授
宮本	雅明	九州大学大学院教授
藪田	貫	関西大学教授
吉田	博宣	京都大学名誉教授

（第3ワーキンググループ）

有馬	學	九州大学大学院教授
◎小風	秀雅	お茶の水女子大学大学院教授
後藤	治	工学院大学教授
○斎藤	英俊	筑波大学大学院教授
篠原	修	政策研究大学院大学教授
鈴木	一義	国立科学博物館研究主幹
鈴木	淳	東京大学大学院准教授

（第4ワーキンググループ）

岡田	保良	国士舘大学教授
◎金田	章裕	人間文化研究機構機構長
高埜	利彦	学習院大学教授
服部	英雄	九州大学大学院教授
日向	進	京都工芸繊維大学教授
○堀	信行	奈良大学教授
惠	小百合	江戸川大学教授

（◎：座長 ○：座長代理）